全国中高生WEBコンテスト:2025

提案者　高倉

1.テーマの採択について

全国中学高校WEBコンテスト（以下WEBコン）に提出するためのWEBのテーマについて、私は「SNSが現代にもたらした影響と対策」を提案する。SNSは今や日常生活に侵食するような形で私たちの暮らしに関わっている。SNSは便利なツールである一方で、もたらした悪影響や副産物は数知れない。インターネットネイティブ世代ともいえる私たちだからこその独自の視点でこの問題を掘り下げながら、SNSが本来どうあるべきかについて結論を出すWEBに仕上げたい。

また問題について解説する中で、閲覧者に視覚的にもSNSがどうなっているのかを伝えられるような疑似体験や、SNSの歴史を語るだけではなくそこに個人の見解や、場合によっては専門家に取材しより多角的な観点からこの問題を読みほどいていく構成にしたい。

2.内容に関しての概要

「SNSが社会へ与えた多層的影響と在るべき形」

WEBコンの方向性的に、より専門的な内容であるほうが上位に結果を残しやすい観点から一度論文を作り、その論文をWEBの記事という要素として盛り込む形にする。

序論：現代社会への問いかけ

21世紀初頭に登場したソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）は、わずか二十年余の間に人類のコミュニケーション様式を根底から変革した。個人が即時に情報を発信・共有し、遠隔地の他者とも双方向的に関係を構築できるこの技術は、国家や階級、制度といった従来の社会構造を飛び越える新たな「社会的場」を生み出している。

しかしながら、SNSは単に利便性を提供する中立的ツールではない。その利用は、ユーザーの認知や感情、行動にまで深く介入し、時に自己認識や社会的つながりの形態にすら変容をもたらす。加えて、SNSは資本主義的メカニズムのなかで「注意」や「感情」といった人間的資源を収奪し、アルゴリズムによって構造的な偏りや分断を生み出す装置ともなりうる。

本論文では、SNSの歴史的変遷を踏まえつつ、現代社会におけるその多面的な影響を検討する。とりわけ、本稿はSNSを以下のような複数の視点から分析する：社会構造、身体とアイデンティティ、資本と経済、倫理と記憶、そしてマイノリティにとっての空間。これにより、SNSが私たちの生活世界において果たしている役割と、今後あるべき設計理念について総合的に考察することを目的とする。

本論:多角的視点から分析するSNSの実態

まず、SNSの歴史的系譜をたどることで、その変容のダイナミズムを明らかにする。BBSや初期のWeb掲示板から始まり、Web2.0の文脈においてFacebookやTwitterが登場し、やがてTikTokやInstagramが台頭する過程では、可視性、即時性、パーソナライゼーションといった特性が強化されてきた。次に、SNSが社会にもたらした正負の影響を論じる。情報流通の民主化、市民運動の活性化、共感文化の形成といった肯定的側面がある一方で、フェイクニュースの拡散、意見の極端化、精神的疲弊といった問題が顕在化している。続いて、身体性とアイデンティティの変容に注目する。SNS上で演出される「デジタル自己」は、ARフィルターや美顔アプリ、アバターなどを通じて、現実の身体と切り離された表象として構築される傾向にある。このような自己表象の過剰は、承認欲求の増大や他者との比較による自我の不安定化を引き起こすことがある。さらに、SNSはプラットフォーム資本主義の中核を担う存在として、広告収益に基づいたアルゴリズム設計によってユーザーの行動や感情を操作する装置ともなっている。ユーザーは「無償」でサービスを利用する代わりに、自らの注意やデータを差し出すことによって新たな労働力として搾取される。マイノリティの視点においては、SNSは発言の場を提供する一方で、差別や排除の空間にもなりうる。#MeToo運動やLGBTQ+コミュニティの可視化はその力を示すが、炎上や攻撃、キャンセルカルチャーもまたSNS特有の問題として顕在化している。最後に、SNSが生み出す記憶と忘却の問題を考察する。SNSにおける発言は半永久的に保存され、時として文脈を失ったまま再利用される。こうした「忘却できない社会」は、過去の発言が未来の自己像に影響を及ぼす新たな倫理的課題を内包している。

結論:円環構造のSNSと、そして私たち

本論文を通して明らかとなるのは、SNSが単なる情報共有のツールを超え、私たちの社会的構造、自己認識、経済活動、倫理観、記憶のあり方までも再編する、極めて影響力の大きい技術であるという事実である。SNSは私たちを「つなげる」が、そのつながりはしばしば不均衡で、時に暴力的ですらある。今後のSNSには、利便性やエンゲージメントの向上だけでなく、「どのような関係性を育むべきか」という倫理的設計思想が不可欠である。アルゴリズムの透明性、ユーザーの自己決定権、デジタルウェルビーイングの保障、公共性の再構築といった観点が求められる。また、分散型SNSの可能性や、Web3的な自己主権型の情報管理といった技術的方向性も、新たな社会的インフラとして注目されている。SNSの未来とは、技術の未来であると同時に、人間関係と社会の未来でもある。本稿が、SNSのあり方を再考し、より健全で持続可能な「つながり」の可能性を模索する一助となれば幸いである。

4.自由スペース(技術者用の書き込みスペース)